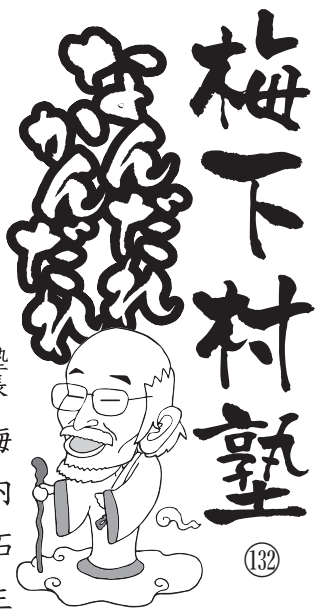


# 「森と水と命の惑星」国際会議

## ～地域と世界の心と魂を詠む～



塾長 梅内 拓生

(ツバキと気仙の魂と心)

大船渡市のシンボルマークはツバキであり、気仙地方のツバキは日本の太平洋岸の北限である。三陸沖の太平洋では千島列島からの寒流である親潮と南からの暖流である黒潮が出合い太平洋の東に進路を変えている。

遠い昔から三陸沖は豊かな漁場であった。海流魚であるサケは太平洋の大きな海流に乗って長い旅をして、生まれ故郷の川に帰って来て産卵をする。気仙地方は森林文化と海洋文化がまじりあい、そこから気仙の魂と心が生まれ来ているといえる。

この恵みをもたらす豊かな海は、時として地球誕生46億年の長い歴史の運動エネルギー

の躍動を地表に火山噴火、地震、津波と連動して表現する。2011年3月11日の地震と大津波は「3・11東日本大震災」として記憶に鮮明に残っている。

現在、気仙地方は、この災害からの復興を目指して日夜懸命の努力を行っている。夏目漱石の文学の弟子で物理学者の寺田寅彦は「天災は忘れた頃にやってくる」という言葉を残している。記憶は時間がたてばうすらぐものである。

その記憶を現在と未来にどのように生かすかが知恵の出どころである。梅下村塾(131)に「ツバキの接ぎ木と文化文明の接ぎ木」を掲載した。これに呼応して赤崎中学校から生徒らが復興を願うツバキの苗木を植樹

している2012年9月12日の東海新報の記事「復興願い記念植樹 大船渡市のシンボル『椿 赤崎町』と中学3年生の俳句が送られてきた。

今出山の麓にある赤崎は湾の奥に南北に長くのびており、3・11の大震災では大きな被害を被った。ツバキは潮風と潮騒に遠い長旅の潮流の思いを感じているのだろう。若い世代は過去を未来につなげる魂と心を詠んでおられます。

### (潮流と椿)

親潮へ傾き椿林かな

流された浜小屋の跡や  
ツツバキ

浜風に笑ってゆれる暮  
石椿

千丸を臨んで新たに椿  
咲く

まっすぐに海に向かっ  
て咲く椿

白波のしぶきをあびる  
寒椿

潮風に椿吹かれてふわ  
り舞う

ツバキは自生、接ぎ木、挿し木などその由来の歴史により呼ばれ方が変わってくる。大船渡湾も昔は盛湾と呼ばれていた。変わらぬものは五葉山、氷上山、今出山から風が湾に吹き流れて来ることである。

返句  
潮風に旅の心や寒椿

返句  
春の日に赤い椿の一つ  
咲く

春椿きれいな赤が光つ  
てる

春椿今年も赤く咲きに  
けり

椿咲く合図一つで春が  
来た

雪とけてつぼみと共に  
春が咲く

春椿いつも岩手を身守  
らん

椿の芽春ぞろそろと思  
うとき

北国の長い冬が終わると春が来る。春の息吹に心は敏感に躍動を

始める。気仙の若い世代は赤い椿に春の期待を込めて詠んでいる。

### 返句

(東海新報記事から)  
1月21日(火)の世迷言には老齡、天災、知恵の世代継承に触れるものが記載されているが、これは「世迷言」ではなく「世覚言」として受けとめなさいということなのだろう。

第5面の「おおふなと昔がたり 第19号」の「通常編 顧みる綾里村民主連名設立の趣旨書」(原文昭和23年5月24日頃) 末崎町 佐々木菊夫」には気仙地方には草の根の民主主義の根性が潜んでいることが述べられている。

これは、私が西多摩新聞に「にしたま文華塾」として連載している「にしたま地域文化価値育成と明治憲法発布の10年前に草の根の有志が起草した五日市民衆憲法」と響き合っている。まさに北限のツバキの接ぎ木は世界の文化文明の接ぎ木と通じている。